



こばやし
小林 聡勇
あきお
公明党
(45分)



エシカルツーリズムは

問 地域の自然や文化に触れながら旅行先の地域に配慮した行動を薦める観光のことをいうようだが、SDGsにつながるこの行動に対する本市の考えは。

答 沼隈・内海地域を中心に行われている民泊事業は、自然の豊かさや地域に触れる体験型修学旅行であり、エシカルツーリズムにつながるものである。さらに、底引き網漁に参加した生徒が、海底ごみの回収、分別を通して海洋汚染防止の意識を高める探求学習なども行っている。今後も民泊事業を継続することで推進につなげていく。



海底ごみの回収をする生徒

*その他、不法投棄対策、路上喫煙防止活動、福山の「街」Clean up大作戦、飼犬のふん害対策、観光等におけるごみの問題について質問しました。



さらがいくみこ
皿谷久美子
公明党
(50分)



強度行動障がいへの取り組みは

問 ①実態の把握および支援施策は。②予防的支援および教育との連携は。

答 ①福祉サービスの利用状況から一定数の対象者がいると考えているが、明確な基準がなく特定は難しい状況である。症状に応じて医療や福祉サービスを継続して受けることが重要であるため県の支援者養成研修を活用し、専門人材の育成に努めるとともに地域生活支援拠点事業等により、その人にあった支援につながるよう取り組む。②できるだけ早期に療育を受けることで改善が見込まれると考えている。幼児健診、保育施設などでの子どもの行動から、気になることを療育の専門機関につなげている。学齢期には事業所と学校がそれぞれ策定している支援計画と指導計画を共有することで効果的な支援に取り組んでいる。



*その他、SDGs 未来都市選定、環境行政について質問しました。



のむらしずえ
野村志津江
公明党
(55分)



市民病院の取り組みの現状は

問 ①手術支援ロボット「ダビンチ」を増設した経緯とその効果は。②がん相談支援センターの活動内容は。

答 ①2014年度に県東部で初めて1台導入し、高度専門医療等の充実を図ってきた。新たな領域での活用が見込まれたことから、患者の体への負担が少ない低侵襲手術のさらなる強化を図るため今年度1台増設し2台体制とした。手術の待機時間や手術時間の短縮等につながると考えている。②がんに関する情報提供、患者や家族の相談窓口として設置している。誰にも打ち明けることができない気持ち、仕事と治療の両立や病気に対する疑問などの相談を医療ソーシャルワーカーや看護師が受け、必要に応じて医師などの専門スタッフと連携を図りながら対応している。同じ病気の方と話し合うおしゃべり会やハローワークの職員による就職支援の相談なども行っている。



市民病院のがん相談支援センター

※#7119(P5): 「すぐに病院に行った方がよいか」や「救急車を呼ぶべきか」を悩んだりためらう時に、医師や看護師などの専門家に電話で相談できる救急安心センター事業
 ※強度行動障がい(P6): 医学的診断名ではなく、自傷、他害など周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮した支援が必要な状態